

企業名： リンクアンドモチベーション (2170)

レポート名： IR BOOK 2021

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

概ね理解できる。会社名にもある通り、会社を経営していく上での「モチベーション」が持つ価値をさらに高めようとしている。BSやPLといった経営指標では測れない、従業員のエンゲージメント度合いを測る物差しとして「エンゲージメントスコア(ES)」を開発し、会社を評価する上でこういった人的資産に関する部分も数字にしていくような、新たな価値観を広めようとしている。また、ESの測定や改善に向けたサポートを行うクラウドサービスである「モチベーションクラウド」を運用し、月会費で売り上げをあげるだけでなく、これをさらに普及させることで、従業員エンゲージメント向上のためのツールの標準となることを目指している。またこれらのサービスと、この会社が得意とするモチベーションに着目したコンサルティングを一元化し、従業員の意欲向上、それによる会社組織の改善のためのサービスとして唯一無二の選択肢になろうとしている。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

ある程度明確な競争優位性があると言える。社会全体として人的資本を重視するようになってきているこの時代において、業界に先駆けて人の精神的な面に着目したコンサルティングを行ってきたノウハウを生かして、IRにおける人的資本の開示支援を行ったり、人的資本の物差しとしてのESの活用、および「モチベーションクラウド」によるその測定、改善のサービスを提供したりしている。また個人向けのスクールの運営を行ってきた経験と、企業向けのコンサルティングを行ってきた経験を元に、企業と個人を結びつけるプラットフォームの運営を行っており、今後さらなる拡大を目指している。このプラットフォームも、単なるマッチングの場を提供するだけでなく、意欲の面に着目した採用モデルを開発、運用することでより納得できる就職、転職の実現を目指しているという。一方で、こういったサービスの独自性や、この会社がエンゲージメント向上に関するサービスの先駆けである事は強調されているものの、他社や業界全体に関する比較等は無いため、実際どの程度他社に比べて優位性を保っているかを正確に理解するには限界がある。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

持続性に関しては、あまり理解できなかった。「モチベーション」に関する事業は比較的新しいこと、それが現時点でかなりの独自性を持つことは十分に理解できた。しかし、今後人的資産や、社員の働きがいの重要度がますます高まっていくことを考慮すると、似たような視点から事業を展開する会社は多数出てくるだろう。統合報告書によると、競争優位の源泉は「モチベーションエンジニアリング」という技術であり、これを基盤にコンサルティング

を行い、圧倒的なデータを蓄積してきたというが、この技術に関する記述があまりなく、通常のコンサルティングとの違いや、その将来性を理解することができなかった。単なるコンサルティングという点でいえば、より大規模で長い歴史を持つ会社が多数あり、クラウドサービス等の IT に関しても、そこに強みを持つ会社が他にも多くある。そういった企業が参入してきた際、この会社が優位性を保てるかどうかはこの資料からはわからなかった。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

できると思う。単なる仕事や経営に関するスキルだけではなく、社名の通り「モチベーション」と言う視点から見た企業のあり方や個人のあり方を業務を通じて学べることは、人的資本がより重視されるようになっていくこの時代において有意義だと思う。他の会社における従業員エンゲージメントを高めるための事業を数多く行っていることもあり、この会社自体のエンゲージメントスコアも非常に高いという。自らがやりがいを感じながら、意欲に溢れた他の従業員と働くことが容易に想像できる。また、従業員の IT リテラシー向上のために、一人ひとりの IT に関するスキルの診断を行い、結果によってそれぞれ最適化された研修が用意されているほか、次世代の経営者を育成するための選抜プログラムもあるそうだ。この会社では、ただ単に仕事をこなすだけではなく、同時に自らの経営スキル、IT スキルを高めつつ、高い志を持って働くことができると思う。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

経営や会計の知識、またこの会社自体に関する知識が浅い、一学生としての意見にはなってしまうが、この会社が軸としている事業の独自性が強く比較的新しいことを考慮すると、抽象的な言葉で説明するよりも、ある程度具体的な例がある方が、この会社について深く知らない人々にとっては理解がしやすくなると思う。特に、報告書中に何度も登場する「モチベーションエンジニアリング」についての説明がもう少し詳しくすれば、競争優位性や将来性を報告書の情報から判断する上で役に立つと感じた。また報告書 33 ページに、詳細についてはウェブサイトまたは昨年の統合報告書を参照、といった趣旨の事が記載されていた。全体の量の制約からすべてを記載する事は難しいかもしれないが、毎年更新される報告書である以上、昨年度のものを参照と言う形にはせずに、改めて内容を書き直しても良いのではないかと感じた。全体として、文章は私でも理解できるほど簡潔にわかりやすくまとまっており、グラフや数字の配置はとても見やすく、そのデザイン性の高さには感銘を受けた。